

第6回 よこはまウォーキングポイント共同事業者選定等委員会 会議録	
日 時	平成 28 年 5 月 18 日 (水) 10 時 00 分～11 時 40 分
開 催 場 所	関内中央ビル 5 階 特別会議室
出 席 者	【委員 5 名】大久保委員、荒木田委員、荒尾委員、上島委員、田中委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開 (傍聴者 2 名)
議 題	1 平成 27 年度事業実施報告について 2 平成 28 年度事業内容について 3 事業検証について 4 その他
議事要旨	
事 務 局	事務局よりあいさつ (健康福祉局 大貫健康安全部長) 委員及び事務局紹介 定足数の確認 常任委員 5 名全員が出席のため、定足数を満たし委員会が成立していることを確認 委員長の互選 委員改選後、初回の開催のため選出。委員長は大久保委員、委員長代理は荒木田委員に決定
議題 1 平成 27 年度事業実施報告について	
事 務 局	【報告】(資料 1) ○参加登録状況 参加実績 162,092 人 (中期計画目標 150,000 人) ○リーダー設置状況 設置数 1,050 か所 (平成 28 年 3 月末時点) ○事業の魅力向上に向けた主な取組 参加者へのインセンティブ 定期抽選 (500 本/3 ヶ月)、W チャンス抽選 (5,000 本/年)、 国連 WFP への寄付、商店街抽選会 ウォーキングイベント ○プロモーション実施状況 記者発表、メディアでの取り上げ、広報・広告、チラシ配布数、イベント 事業所向け PR 活動 ○事業の検証・分析 平成 27 年度事業検証結果、東京大学との歩数データの共同研究
大久保委員長	ありがとうございました。27 年度の実績についてご報告がありまして順調に進んでいると伺いますが、ただ今のご説明についてご意見、ご質問はございますか。

荒尾委員	資料1の3(1)寄付のところですが、220万とありますが単位は何ですか？
事務局	こちらでは円でお渡ししております。
荒尾委員	これは220万円という意味ですね。
事務局	はい。
荒尾委員	それから目標歩数が一人あたり月平均10万歩ということですが、これはどういうことでしょうか。
事務局	わかりやすい数字にしようというなかで、目標としてもクリアできる数字ということで、10万歩を事業開始当初に設定しまして、そのまま引き続き利用させていただいております。
荒尾委員	参加者全員の平均値ですか。
事務局	データを送信いただいている方の、平均値になります。
荒尾委員	全員がひと月に10万歩以上歩いているかどうかというところですね。
事務局	はい。歩いているかどうかで判断しています。
荒尾委員	わかりました。
大久保委員長	確認いたしますが、16万人が参加されていますが、16万人全員が月10万歩超えた時に、20万円の寄付をしているということですね。
事務局	参加者の中にはデータを送信されない方もいらっしゃいます。その方だけは歩数がわからないため、送信いただいている方の平均が10万歩を超えていれば寄付を実施しています。
大久保委員長	印象ですが、結構歩いていらっしゃいますね。
事務局	データを送信する方なので、熱心に取り組んでいただいているとは思いますが。
大久保委員長	そのお金はどういった方式で入ってくるのですか。

事務局	共同事業者様からのインセンティブの提供といった形で、お金を提供いただき、寄付をしています。横浜市が負担しているというのではなく、共同事業者の方にご負担いただいております。
大久保委員長	参加者がリーダーを設置している場所で、例えば何か買い物をしたら共同事業者に少し還元されるのでしたか。単に共同事業者がインセンティブのお金を支払ってくれているのですか。
事務局	事業の協力体制を最初に提案いただいた中で、特にリーダーにタッチすることでお金が還元されたり、商店街様に共同事業者のお金が支払われたり、共同事業者にお金が支払われるなどは全くない中で、この事業に係る共同事業者としてご負担いただいているものになります。
大久保委員長	共同事業者は他のことで得た利益をこちらに還元しているということなのですね。
田中委員	還元で、17 か月間のうち 11 か月間で寄付の基準をクリアしましたが、6 か月はクリアしていないですね。それで、歩数の平均値を計算する際の分母は、例えば 15 万人全員だったが、リーダーでデータを送っていただかないと、データがはっきりしないということで、途中から計算方法を変えたような気がします。
事務局	はい。今年 1 月から変えています。
田中委員	ずっと分母は総参加者数で、平均歩数を計算していたために、6 か月クリアできなかったということもありますか。
事務局	そういったことも考え方として 1 つあります。最初にクリアできなかったのが、事業開始翌月の 26 年 12 月、この時は歩数計の届くタイミングが月末に近かったのが、参加者数は多かったのですが、歩数が少なかったことがありました。次にクリアできなかったのが、27 年の夏で暑かった時期になります。暑くてやはり歩く方が減ったということがありました。その後、秋に向けて一旦は持ち直したのですが、参加者の数が増えてきますと、やはりデータ送信していない方が全体の中に占める割合が大きくなって参りました。参加しているけれどデータ送信していない人も分母に入れてしまうと、歩数データがない方も含めての計算になり、平均歩数が正確ではないということも含めて、1 月から変更いたしました。あくまでもデータを送信していらっしゃる方の歩数しか確認できないため、その平均歩数で 10 万歩以上ということにさせていただいております。

田中委員	最近はその方式で行くとずっとクリアしている、そういう理解でよいですか。
事務局	はい。データを送信いただいている方は、とてもよく歩いていらっしゃいます。
田中委員	はい。ありがとうございます。
荒尾委員	10万歩の根拠はあまりないのですよね。平均にしたら1人あたり1日3,300歩ですね。
田中委員	達成するのにそんなに難しい数字ではないです。
荒尾委員	これはこれでよいと思います。
荒木田委員	別件でよろしいですか。4. プロモーションの実施状況で、(6) 事業所向けPR活動を積極的にされているのですが、事業所参加が282事業所ですよね。どの媒体、と言ったら変なのですが、団体説明とか個別広報、営業だとかどれが事業所の参加につながっているか、というような手応えなどはありますか。
事務局	広く周知するという意味では、市の工業会の連合会や商工会議所様に幅広く周知させていただいております。一方で会社様に働きかけるには、個別に訪問してお話しさせていただいて、会社として健康づくりに取り組みませんかというような個別のアプローチがないと会社様の参加は難しいという状況だったため、昨年度は個別訪問に力を入れました。今年度も引き続き力を入れたいと思っています。
荒木田委員	個別訪問をされるというのは、どういうルートで個別訪問をされるのでしょうか。団体説明で、もっと聞きたいと言ったところに訪問をする、というようなことでしょうか。
事務局	一番は行政、特に区役所などは企業様と色々と日頃からつながりがありますので、その会社様を中心に、さらに言えば工業会様の名簿などを見せていただいて、担当の課から連絡し、アプローチをするという形で行っています。
荒木田委員	はい。ありがとうございました。
大久保委員長	他にございますか。私から、5の(1)の1日平均歩数8,000歩(男性)か6,000歩(女性)がありますが、市の目標がありましたよね。その目標に達成している方は年齢が上の方でしょうか。

事務局	昨年度の報告の段階では、男性の年代別にみると、ほとんどクリアしています。ただ、女性に関しては目標歩数までなかなか到達できていません。データとして出ています。
大久保委員	目標歩数は何歩でしたか。
事務局	年代によって8千歩から9千歩、国の基準にあわせて横浜市も設定させていただいております。
大久保委員	女性の参加者数は多いけれども、歩いている歩数としては男性より少ない傾向ということですね。
事務局	女性は、意外と歩数計をつけていない時間が多いのではないかとということもございましたので、そういったところも含めて、今年度は調査していきたいと考えております。
大久保委員長	はい。ありがとうございます。では、まだあるかもしれませんが、また戻れるということで先に進めさせていただきます。 それでは議題2の平成28年度の事業内容について事務局からお願いします。
議題2 平成28年度事業内容について	
事務局	【報告】 ○平成28年度よこはまウォーキングポイント拡充項目（資料2） 新規参加募集数 8万5千人 「働く世代」「若い世代」の参加促進（参加対象の拡充） 景品抽選、ウォーキングイベントの拡充
大久保委員長	ありがとうございました。ただ今ご説明がありましたように、参加対象者を40代という限定から年齢を下げて、事業計画を拡大していくと説明があったところですが、ただ今のご説明につきまして意見、ご質問はございますか。
荒尾委員	28年度は新たに事業所をターゲットとした、登録者を増やすということだと思うのですが、申込方法が在勤の方は郵送とウェブになっています。これは多分個人対応だと思うのですが、事業所の団体申込も設けた方がいいのではないかと思います。
事務局	昨年度も郵送申込ということで記載しておりますが、団体申込の様に一括して送っ

	<p>ていただく方式を取りました。(事業所向けちらし参照)裏面をご覧くださいまして、「お申込の流れ」の下の、「B 参加を希望される方の全員の歩数計を事業所に一括配送する場合」というところで、こちらについては事業所で申込書を、事業所のメインの担当の方が取りまとめていただくといったタイプになっております。</p> <p>「A 個人宅にお届けする場合」は、事業所の担当の方が事業所登録をしていただくと、あとは個人がWEBで申込むことができます。個人で申し込むということを優先される会社様と、職場での取りまとめを優先される会社様の2パターンに対応する形になっております。</p>
荒尾委員	<p>個人登録者に対しては個人のデータを日頃パソコンからアクセスして見るができるが、例えば、企業ごとのとりまとめたデータを見ることができるようなシステムになっているのですか。</p>
事務局	<p>ホームページのランキングを見て頂きますと、事業所別のランキングがあります。登録されている事業所の方がどのくらいの歩数で、ランキングのどの位置にいるのかを見ることができるようになっております。</p>
荒尾委員	<p>それはいいことです。</p>
事務局	<p>少し補足させていただきます。昨年、事業所回りをさせていただいて、私も鶴見区で回ってみたのですが、やはり40歳以上だと管理職しかいないということで、それでは事業所として職員の健康管理にあまり役立たないという意見が非常に強かったということがありました。職場として取り組むなら年齢で区切ることなく、職場一体で参加したいという希望が結構ありました。それを受けて今回18歳以上にするといったことが1つ、あと先生が言われました通り、一括で申込むことによって事業所番号を付番しますので事業所も見ることができます。また個人名は愛称で表示できますので、事業所ランキングの中で、自分の状態だと見ることができます。あともう一つの特徴は、今まで送料が630円かかっていたのですが、事業所に一括で送るため、会社でまとめて送料負担をする場合は個人負担がなくなります。そこが一番大きなメリットかと思っております。</p>
荒尾委員	<p>事業所単位で勧誘していくというのは、非常に効率のいい新規登録者を増やす戦略かと思えます。特に今年度の目標達成なかなか厳しいと思えますので、その事業所単位の登録戦略がうまくできると、達成可能になるかなという気がしています。色々なアイデアを出して、その点をうまくできるといいのかなと思えます。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。昨年事業所の方から2万人集めようということで、取り組</p>

<p>荒木田委員</p>	<p>みましたところ、結果が 4,000 人以下ということで戦略を練り直して、事業所が入りやすい方式で、1 人でも多くの方が参加していただけるよう今回対象を 18 歳以上にするなど踏み出しました。法人会や商工会議所など、各区区長がそういった団体とつながりを持っています。各区の協力をいただきながら一緒になって取り組んでいきたいということで、企業リストも各区にお願いしていこうと考えております。</p> <p>参加できる年代を拡大していただけたということで本当に良かったかな、と思っています。事業所も参加しやすくなったと思っています。もう一つの提案として、この若い年代 20 代 30 代といった時に、事業所だけでなく保育園、幼稚園、PTA といったところはどうかと思ひまして、PTA の連合会とかにアプローチをかけるなど、保育園、幼稚園でしたら特に保育園でしたら区の方がかなり連携を取っていらっしゃるのではないかと思います。そういったところへのアプローチをされたらいいのではないかと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。その部分も非常に重要だと思っております。こども青少年局や区に対し、各区の幼稚園、保育園にもぜひアプローチしていただきたいと、お願いをする予定でございます。</p>
<p>田中委員</p>	<p>今のお話にも少し関連するのですが、対象年齢が 18 歳以上になったことは非常に良いことだと思います。私ども保健活動推進委員も、乳児健診が定期的にございます。そういう中で、健康チェックをやらせていただいているのですが、特にロコモの立ち上がり度チェックなどをやりますと、お母さんによってかなり体力格差があります。お手伝いに来てくださる大学生も、こちらも若い割に体力格差があります。そういう点にもぜひ、これは区役所で定期的に行うものですから、ぜひ乳幼児健診はもちろん元気な方も含めて、積極的に PR、勧誘をしていただきたいです。その場でまだ入ってない方は、申込書ありますということで、そこで記載していただき、WEB 申込や郵便局やスポーツセンターでの窓口申込をしなくても、その場で全部申込を受け付けるというようなことをやっていただけないでしょうか。あとは一括で区役所の方で処理すればいいわけですから、通常の送料 630 円はかかりますが、ぜひそれはやっていただきたいです。実際に健康チェックをやって、若い人は大丈夫なのかと、やはり体型とか、女性の方はそちらに意識があって、お子さんを産んでいたりすると、年配者が心配することではないかと思うのですが、本当に心配になってしまいます。ぜひ、ひとつご検討いただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。今言われた通りの方式を私どももやりたいと考えておひまして、区役所と連携してやらせていただきたいと考えています。ありがとうございます</p>

荒尾委員	<p>ます。</p> <p>今までの話を聞いていて、ひらめいたのですが、今年の8万5千人の新規登録者を確保するという戦略として、昨年度までは個人を対象にした勧誘・戦略だったのだけれども、今年は集団や組織単位の勧誘戦略をひとつのキーワードにした新規参加者獲得、そういうことをスローガンとしてあげたらどうでしょうか。高齢者であれば老人クラブ、社会福祉協議会などと連携しながら、それから中高年の在勤者については、事業所、商工会議所、そして自営業とか主婦の方は、先ほど荒木田先生がおっしゃっていた保育所とか学校とか。個人から集団への戦略の切り替えを、今年の戦略としていいではないかと思ったので、少し検討していただければと思います。</p>
事務局	<p>我々もそういう視点も必要だなと思います。どういう視点で、戦略としてやっていくのか検討させていただきたいと思います。</p>
大久保委員長	<p>18歳以上であればどなたでもよいのでしょうか。人数を集めるのであれば、本来の目的とは何かと考える必要がありますが、市大もあるし、学生でもよいのでしょうか。優先順位としてはどうなのでしょう。</p>
事務局	<p>今の拡充という中では、大学生は、横浜市民で18歳以上の方はもちろんご加入いただけます。市外在住の大学生の方はご加入できない仕切りにさせて頂いておりますので、その先をどうするか検討しようと思っております。</p>
荒木田委員	<p>もう1つ確認なのですが、WEB申込可能ということはスマホ対応ですか。</p>
事務局	<p>はい、スマホからもお申込は可能です。</p>
荒木田委員	<p>ありがとうございます。</p>
大久保委員長	<p>他にございますか。ではまた戻れるということで、先に進めさせていただきます。こういった方針で、ぜひ進めていただければと思います。</p>

議題3 事業検証について	
事務局	<p>【報告】</p> <p>○事業検証の概要（資料3）</p> <p>平成27年度からの基本的な考え</p> <p>平成28年度事業検証内容（27年度との比較）</p> <p>利用状況調査報告書</p> <p>検証手法別検証内容等</p>
大久保委員長	<p>どうもありがとうございました。ただ今のご説明について、ご意見、ご質問はございますか。</p>
荒木田委員	<p>ご丁寧な説明ありがとうございました。図2のところで、16万人に歩数計が届き、13万6千人がリーダーに行きました、ということなのですが、どの区の中の機関のリーダーがよく使われているのでしょうか。よく使われているリーダーはどこなのかということが情報としてあるかどうか、今後の展開のところにも関係するかなと思いました。それと、リーダーを使っていない2万数千人は、どの年代で、どういう地区の方で、などの特徴が見えればまた実施のところにつながるかと思えます。そういった情報をもしお持ちでしたら教えていただきたいですし、分析の際には、リーダーを使っている方のこういう情報は取れるのですが、使っていない方の情報も、色々分析していただいたらいいかと思いました。</p>
事務局	<p>まずリーダーで、どこが一番利用されているかということですが、リーダー1つ1つの送信ログ、利用者数が共同事業者様の会社の方針で取ることができないため、どこが利用されているのが多いかということは分析できなくなっております。次のご質問なのですが、未利用者の年代別の分析は昨年度の利用状況報告書に入れておきまして、やはり高齢の方がどうしても多いというのが傾向としてわかっております。区別の人数まではわかるのですが、さらに小さい地区までは分析しておりません。ただこの区でも同じように高齢の方がなかなかリーダーに行かないということと、女性の方がリーダーを利用する割合が未利用者の中では多いという傾向が出ております。</p>
荒木田委員	<p>ありがとうございました。</p>
田中委員	<p>別の視点で、ウォーキングは健康づくり、仲間づくりという風に思っていたのですが、この取り組みはそれだけではなくて、商店、街の活性化を第3番目に挙げているというのが非常にユニークで、いいことではないかと思っています。そういう視点で見て、街の活性化にどのように働きつつあるのかという分析は、まだ具体的に何しようといった論議の段階で、28年度には無理かもしれません。ですが29年度</p>

事務局	<p>はそろそろ最終年度になってくるのでその辺のところ総括できるような準備もなさっていた方がよろしいのではないのでしょうか。</p> <p>27年度にリーダー設置にご協力いただいている店舗様にアンケート調査を実際に行いまして、公共施設、商店街の店舗様両方から、各チェーン店も含めてご回答をいただきました。リーダー設置場所になってよかったという回答を、非常に多くいただいています。具体的に、来る人が増えたという設置場所が多く、売上につながったかという点では、売上は変わらないという設置場所が一番多かったです。横浜市商店街総連合会の会長様にお話をすると、タッチしていく人の半数は買う人、半数は買わない人という印象、とのこと。ですので、全くこれまで来られなかった人が来てくれて、そのうち半分が買ってくれるのであれば、売り上げが増えたという回答をいただいている店舗様もありますので、活性化に少しはつながったのではないかと考えています。参加者の方へのフォローにも非常にご協力いただいております。ご負担もあると思いますので、そういったところも含めて、28年度は分析、検討をしていきたいと思っております。</p>
荒尾委員	<p>よろしいですか。少し関係するのですが、この事業の目的、目標をクリアにした方がいいような気がします。(資料3図1の)一番上にある健康寿命の延伸があるのですが、おそらくこれは健康横浜21の目的を、ここに設定していると思っておりますが、健康寿命の延伸はいわゆる全体的な評価ですよ。それに対して健康日本21は質的な目標、それは格差の縮小ということですよ。この2つをふまえて事業目的を設定するべきだろうと。去年からずっと言い続けているのですがそういう視点で考えると、格差の縮小という問題に対してどのような戦略と評価をしていくかということが非常に重要で、その部分は僕は非常に欠けていると思っています。ですから、最初は量的な、全体的なものでもいいと思うのですが、もうそろそろ第1期半分過ぎた、後半に入ってきていますので、少しそういった質的な目標の視点も、28年度の検証についてはクリアにした検証も必要だと思っていますところ。と言いますのもこのインセンティブ事業は非常に危うい政策でして、要するに元気な人がこういうものに真っ先に取り組むものです。本来の事業の目的である、運動していない人が、何とか運動してもらおうというきっかけとしての事業のはずなので、そうすると、単に全体的に健康寿命が上がったとしても、おそらくその詳細を検討すると、もともと健康な人が健康になっただけで、本来事業目的の運動していない人はそんなに変わってなかったということが大体现状としてありえます。そのことは健康格差を縮小ではなくて、拡大しているという、見方によっては目標と逆の現象を作り出してしまいう可能性があります。インセンティブ事業はそういう危うさを持っているので、そうならないように常に配慮しながら、これを運営するという観点が非常に重要です。そういう意味でも寿命の延伸と格差の縮小は裏表みたいなものなの</p>

	<p>で、これを合わせてやるから、事業目的にきちんと明確にした上でやっていく必要がある。ずっと言っているのですが、ぜひ第1期の後半にも入る時期なので、そういった視点をもう少しくリアにしていけたらいいと思っていますので、よろしくご検討の程お願いいたします。</p>
事務局	<p>参加状況前の運動状況を聞くことに、アンケート調査などもしておりますので、もう少しそこを明確に打ち出せるように考えていきます。</p>
荒尾委員	<p>ありがとうございます。</p>
荒木田委員	<p>もう1つごめんなさい。10ページのところに、参加者の健康行動が、意識がどう定着につながったかということと、ソーシャルキャピタルの向上につながっているかなどを検証するところがあります。特に高齢化社会にあっては、ソーシャルキャピタルの醸成は大変重要だと思っています。質問はどの調査項目をソーシャルキャピタルとして位置付けてらっしゃるかということと、9ページの図にもソーシャルキャピタルの概念が組み入れられていたらすっきりするなと思いました。</p>
事務局	<p>9ページの図は昨年度の図のままになっているので、入っておらず、今年度は地域とのつながり、例えば事業参加後に地域の人の方と話すようになったかなどを、アンケート項目に追加させていただいて、公共施設を利用したのか、商店街に行ったのか、地域の教室、運動、そういったグループ活動に参加するようになったのかといった項目をアンケートで聞くことによってソーシャルキャピタルの向上につながっているかどうかを聞くことにしようと考えています。</p>
荒木田委員	<p>はい、わかりました。</p>
大久保委員長	<p>他にございませんか。では、私の方から数点確認です。9ページのところに事業検証のところ適正な運動とありますが、これはどうやって調べますか。何をもち適正としますか。</p>
事務局	<p>年代別の平均歩数は目標値がありますので、昨年度と同じように適正な歩数は、この年代で何歩超えていらっしゃるという目標値で、もし超えていらっしゃらない場合は、歩数計を利用されている時間が1日何時間くらいですか、といったご質問もアンケート調査にいらしていきます。それを加味しながら、昨年度なかなか、女性の方が目標歩数を超えてないということがありましたので、適正な歩数は、基本的には目標値である年代別の健康横浜 21 などの平均歩数を適正な歩数として扱います。</p>

大久保委員長	つまり「不適正」な、といった表現を見た時に、歩きすぎている人がいるのではないかと歩きすぎの人へのアラーム、といった印象をもちましたが、1つの基準があるので、それが達しているかといったところなのですね。
事務局	歩きすぎの方については、実は昨年度も毎月上位の方に、お体にお気をつけくださいといったお手紙を毎月送っておりました。
大久保委員長	参考までに、どのくらい歩く方がいらっしゃったのですか。
事務局	ちょうど1年前くらいは月400万歩を超えていらっしゃいました。
大久保委員長	1日10万歩ということですか。
事務局	それが段々下がって300万歩、今は200万歩くらいまで下がってきております。
大久保委員長	わかりました。あともう1つは、11ページのアンケートで、16万人のうちの4千人は、つまり40分の1くらいの確率です。先ほど事業所の方とそうでない方の参加の比較ということになっていましたけれども、事業所の方に40分の1の確率で十分にあたる可能性はありますか。
事務局	無作為で出し、事業所で参加していますかという項目を入れることによって、アンケートのうちこの方は事業所参加ということで後に振り分ける予定です。最初の段階で事業者参加の方をうまくピックアップする方法を考えます。
大久保委員長	それはできないとしても、何人くらい対象になりますか。まず事業所参加は何人ぐらいいらっしゃいましたか。
事務局	3,510人位です。
大久保委員長	そうすると、アンケートを取るのには10人位ですね。
事務局	少ないですね。
大久保委員長	そうすると分析が不可になってくる。
荒尾委員	事業所単位で調査対象を別にしたらどうか。そうしないとこの中では、サンプル図としては不十分な状態になるから、聞いても何もわからないことになってしまう。

事務局	<p>事業所はどうかということをはっきりさせて、サンプリングしないと。</p> <p>そうですね。歩数データは全員分で分析するのでまだよいのですが、確かにアンケート調査では少ない可能性がありますね。</p>
大久保委員長	<p>少しまた考えてみてください。それに関連しますが、アンケートは郵送ですが、eアンケートがあるようなので、参加者の中で、郵送ではなくてメールで回答できるような仕組みはできないのですか。そうすると16万人全員に、4,000人という抽出ではなくもっと一気に大量のデータが得られるような気がします。</p>
事務局	<p>横浜市が電子申請システムを利用してeアンケートを使い、うまく答えられるように設定すれば、利用できるものもあります。今大体参加者の方でアドレスを登録頂いている方が4割位です。また若い方にどうしても偏っているので、今回は全年代から抽出するために、紙でお送りするというのを昨年度に引き続き今年も実施してはいるのですが、アンケート用紙をeアンケートにすることはどうかというご意見は実は昨年度も頂いてはありました。また今後事業を進めていくなかで検討していきます。</p>
大久保委員長	<p>歩数データの分析データを集める期間は27年度と28年度で同じ月でいいですか。</p>
事務局	<p>27年度集めた月から、さらに伸びるのが28年度の分析期間です。</p>
大久保委員長	<p>データは足されるのですか。</p>
事務局	<p>足される形です。26年の11月から28年3月末までの期間の歩数データになります。</p>
大久保委員長	<p>そうすると27年度と28年度は単純に比較できないということですか。</p>
事務局	<p>そうですね、直近の月の部分が伸びていますので。</p>
大久保委員長	<p>先ほど東大のデータでは季節によって歩数に差があるということでしたので、そこが合っているのであれば27年度に例えば平均5千歩だったものが、28年度6千歩に増えたとか、そういうことがわかるわけです。しかしデータを取る時期がずれていると正確な比較が難しいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>東京大学の分析に関しては、月で何歩というデータを連続でお渡しし、27年6月</p>

	<p>までの期間で、先日中間報告ができあがっています。その後の期間も継続して分析することによって、さらに連続した季節変動が出る予定です。26年11月から27年6月までの秋から夏の期間で、冬が無い状態のもので今回中間報告ができていますので、今年度その続きが出ることによって季節が全部回るような分析結果が出る予定になっています。</p>
大久保委員長	<p>単純な比較をするときには、季節のずれがあるということですね。わかりました。</p>
事務局	<p>そうですね。平均歩数としては難しいです。</p>
大久保委員長	<p>はい。確認させていただきました。他にございますか。これから調査を行うということですので、ご意見を頂き、可能な限り反映させていただければと思います。</p>
上島委員	<p>やはり若い方を引き込むのが難しいです。私達も食育をやっているのですが、働く子育て世代の方を引き込むということがなかなか難しいです。各区でいろいろ努力しているのですが、学校単位 PTA だとか、そういう単位で取り組むと、多くのデータも得られますし、人も集まりやすいし、周知もできるのではないのでしょうか。PTA に来ていらっしゃるお母さまたちにも、こういう声かけをしていただければ、参加者も増えるのではないかと思います。</p>
荒尾委員	<p>確認なのですが、e アンケートと質問用紙のアンケート、これは内容は同じですか。</p>
事務局	<p>いえ、違います。</p>
荒尾委員	<p>違うのですか。</p>
事務局	<p>e アンケートはあくまでも参加していない人もいるも混ざっているアンケートで、一般的な市民としてこの事業を知っているかどうか、知っている方の中で参加している方が市民全員でどのくらいいるかというようなところを取っていくためのものです。</p>
荒尾委員	<p>既存のモニター登録者だからなのですね。わかりました。なぜ聞いたかという、一般的に郵送でアンケートをすると若い人ほど回答率が悪いので、逆に言えば若い人が答えられるようなツールを用いて行います。若い人は e アンケートが一番答えやすいので、それといわゆる従来の方法を組み合わせると全体的なデータ数がある程度カバーできるというのが一番いいところなので、そういうことができるかと思いを聞いてみました。紙のアンケートと e アンケートは対象者が違うのですね。</p>

大久保委員長	他にございますか。本日議題3つまで、ご意見いただきましたけれども、議題1～3全体を通じて言い残したこと、言い忘れたこと、さらに確認したいことがありましたらいかがでしょうか。
荒木田委員	すみません。8ページのスポーツセンターの窓口というのは、いわゆる民間のスポーツジムではないのですよね。
事務局	はい。
荒木田委員	横浜市のスポーツセンターということですね。なるほど。スポーツジムとかも協力してもらえればいいと思ったのですが、わかりました。ありがとうございました。
大久保委員長	それはこちらから売り込んでいけばよいのではないのでしょうか。スポーツジムに行く人は健康に意識がある人なので、むしろそれ以外の方が事業ターゲットなのでしょうけど、参加者数を増やしていくために、もちろん検診会場や献血会場で色々な場所での広告というのを色々とされているのだと思います。メタボ健診会場なんか特にいいのではないかと。ちょっとメタボ系の方にお配りして、ぜひ参加して歩いてもらうと。保健師による指導のなかにもそれが表れてくるといいかと思います。
荒尾委員	先ほど言った、あまり運動していない人にアプローチしていく時に、例えば田中委員達が行っている保健活動推進委員の人たちと協力して、何かそういう人たちにアプローチするのも1つかなという気がします。
事務局	色々なご意見をありがとうございます。本当に色々な団体が各区にあるので、どこにどのようにアプローチするか、各区とも相談し効率的に活動しながら、進めたいと思います。先生たちが言われたように、今まで運動が好きな人は大体参加していただけているのかなと思っています。その方達が16万人いらしたということで、これはこれで素晴らしいと思います。これからの残り14万人は、そうでない方が結構含まれています。そこにどうアプローチしていくのが課題ですので、今日先生方から頂いた意見をもとにいろいろ検討し、各区とも協力しながら1人でも多くの方が、健康づくりに取り組んでいただければと考えています。その人達を起爆剤に、よりその周りの方々に広がることによって、市の健康寿命も結果として伸びると、そんな形をイメージしております。ぜひ取り組んでいきたいと思っています。本当にありがとうございます。
大久保委員長	それでは議題の1から3については、意見や質問などが出尽くしたと考えます。その次の「議題4 その他」ですが、事務局からございますか。

議題4 その他	
事務局	次回の選定等委員会の開催についてですが、年内にもう1度開催をしたいと考えております。日程につきましては、また後日皆様にお伺いいたしますので、よろしくお願いいたします。
大久保委員長	ではまた日程調整を、みなさんご協力のほどよろしくお願いいたします。もう少し時間がありますけれども、何か言い忘れたこと等はございますか。 それでは今日大変貴重な時間、活発な議論をありがとうございました。今日出ました意見についてはぜひ当局の方で反映できるものであれば、反映していただければと思います。それではこれを持ちまして、第6回よこはまウォーキングポイント共同事業者選定等委員会を終了させていただきます。みなさんどうもありがとうございました。 <p style="text-align: right;">(以上)</p>